地域子ども・子育て活動支援助成事業　実施報告書

団体名	てらこみーる実行委員会

取組の名称	食事付寺子屋「てらこみーる」（子ども食堂）
実施場所	「メサ・グランデ」川崎市中原区新城５－１２－１３
対象地域	川崎市中原区及び高津区周辺等
対象地域の特色・課題	対象地域は，明らかな貧困家庭は多くないものの，いわゆる核家族家庭が多いという特色があり，保護者が多忙で家庭の中で孤独を抱えている子どもたちが少なからず存在していたり，日々の暮らしに追われて家庭外での交流が難しく家庭そのものが地域の中で孤立している状況が少なからずあるものと思われ，その解決が課題となる。
取組の趣旨・目的	本取組は，家庭の貧困や保護者等の力量的限界により孤独を抱える子どもたちに対する無料の学習サポートや食事提供だけでなく，地域の「だれでも」参加できることを前提に，心をゆたかにする季節の食材を取り入れた「たのしくておいしいごはん」を提供したり，季節開催又は不定期開催による体験型ワークショップ等の能動的な活動の充実を図ること，寺子屋講師や調理のボランティア等のサポーターのみならず，寺子屋や食事に参加する参加者（大人を含む）全員が相互に主体となって，地域に根付いて家庭や地域の機能を補完する趣旨・目的を有する。
実施内容・実施スケジュール	食事付寺子屋「てらこみーる」は，平成２９年２月１９日より，これまでに全２５回，原則として毎月第３日曜日に，川崎市中原区新城所在のコミュニティ・カフェ「メサ・グランデ」において開催されている。 「てらこみーる」とは，「寺子屋」と「ミール（食事）」を合わせた造語である。調理の時間帯に並行して開催され

<table>
<tr><td></td><td colspan="3">る「てらこやタイム」においては，宿題等を持参する子どもたちにボランティアが無料で学習のサポートをしたり，ワークショップを開催したりする。大人も子どもも誰でも参加可能である。勉強をせずに，備え付けの写真集や図鑑を見たり，折り紙やぬり絵などをたのしむこともできる。
１２時から開催される「みーるタイム」では，野菜ソムリエが考案したレシピに基づき，１８歳以下の子どもに対してはすべて無料で，大人は１名につき５００円で，季節の野菜をふんだんに使用した美味しい食事を提供している。
「てらこみーる」に参加する子どもたちは，思い思いに，学習や工作をしたり，地域の大人たちと共に調理を体験したり，テーブルごとに「いただきます」をするなどして食事を楽しんでいる。なお，食事だけの参加も可能である。</td></tr>
<tr><td>参加者の年代</td><td>乳幼児～高齢者</td><td>定員
（１回あたり）</td><td>当面の間は店内参加１５名まで（感染症対策のため。入替有り）</td></tr>
<tr><td>実施頻度</td><td>毎月１回</td><td>活動日数
（年間）</td><td>１２日</td></tr>
<tr><td>スタッフ体制</td><td colspan="3">毎回２～１０名参加（２０２０年度実績）</td></tr>
<tr><td>連携する団体・
連携の手法</td><td colspan="3">本取組は，中原区所在のコミュニティ・カフェであり地域活動支援センターとして選定されている「メサ・グランデ」により，開設にあたっての助言，場所，食材の提供及び「てらこみーる」共催者としての関与を受けている。
食事及び寺子屋の参加者はそのほとんどが地域の子どもたち及びその保護者であるが，意識的に様々な背景の参加者を受け入れている。
また，一昨年度からは，「地域のなかで親や子ども・若者・おとな・高齢者そして社会が抱える課題に目を背けず向き合おうと力を合わせる」ことを目的とし，会場である「メサ・グランデ」というひとつのコミュニティの場で各々様々な取り組みをする団体が相互につながる「ビーバーリンク武蔵新城」へ参画しており，「セカンドリーグ神奈川」からの食材寄付支援を受けている。</td></tr>
</table>

	なお，てらこみーる実行委員会として設立にも取り組んだ川崎市内の子ども食堂のネットワーク「かわさきこども食堂ネットワーク」では，本実行委員会の事務局員が同ネットワークにおいて副代表と監事を務めている。
取組実施により見込まれる効果	本取組の特徴は,「みーるタイム」に子どもに対しては無料，大人に対しては安価な食事を提供するだけでなく，調理の時間帯に並行して，通常の子ども食堂にはない「てらこやタイム」を設ける点にある。その結果，参加者同士の距離が近くなり，子どもたちが多くのボランティアや参加者である大人に接することで,社会に多様な大人が存在し,様々な社会人としての姿があることを認識しつつ，地域の大人と接する居場所を提供することができるという効果がある。 また,子どもたちが地域等の大人たちと過ごせる時間を,日常の生活に追われる平日ではなく，週末に設定したことにより，子どもたちあるいは子どもたちと一緒に参加する保護者等も普段とは違った余裕のある時間を過ごすことが可能となる。 なお，昨年度は新型コロナウイルス蔓延のために，いつも取り組んでいる調理系のワークショップが開催できなかったが，感染防止に努めつつ，防災ワークショップやプロの歌手を招いて英語の歌を学ぶワークショップ，アルファ化米の調理を実演するワークショップなどを実施した。